

還暦を迎えて

東京秋工会 副幹事長

染谷 厚子

(昭和47年工業化学科卒)



はじめに

本題の寄稿依頼を受けたとき、自分には還暦という単語が妙に表現しがたく、当てはまることなど一つも無いと躊躇してしまいました。

その理由の一つは、心身共に健康であるということです。最近のスポーツクラブ(カーブス)での測定結果は、血管年齢(42才)、体年齢(36才)、実年齢(59才)です。私の目標とする自分像は【心身共に、脂肪を付けない】女性で有り続けることです。もう一つの理由は、現在も現役女性研究者であり、まだまだ進化の過程であるということです。

女性が仕事を続けるということ

高校進学の時、一番に考えたのは『いかにして秋田を脱出し、東京暮らしをするか』と言うことでした。そこで選択したのが秋田工業高等学校でした。卒業の時、秋田にいても就職口無いわヨと言って、両親を説得。まんまと秋田脱出に成功したわけです。

この時代はまだ、女性はアシスタント的存在で、使い捨て状態でした。2年勤めたら、保母さんの資格が取れるとか、女子寮にはお茶室があって、お花も習える。そして、立派な調理室があるとか、プラチナの卵である私達新卒高校生を企業は争って獲得に奔走していた時代でした。しかし、そんな企業には何の魅力も感じませんでした。

従って、就職先は【先輩の居ない会社】にターゲットを絞り、初めて求人があった曾田香料株式会社に入社しました。

が、ここでも結婚や出産を機に寿退社するという社会風潮がありました。しかし、私自身は仕事を続けたいという希望を持っておりまして、何とか一人前に仕事を出来るようになることを

目標に、頑張りました。その結果、昭和51年に男女平等をいち早く勝ち取り、現在も男性と同等に仕事を出来る環境を作り上げました。

育児、子育て

出産、育児、および子育ては、仕事を続ける女性にとってとても厳しい問題があります。現に、一人息子は生後4ヶ月から保育所でお世話になることになりました。それでも、夫婦二人三脚で多くの困難を乗り越えました。

私が定年を迎え、無事卒業をしたときに、母の生き方を理解してくれると信じ頑張ります。

そう考えると、定年=還暦なのですね。

還暦を迎えて

先日、同期入社女性二人の【定年退職を祝う会】が催されました。仕事を通して何をを目指すかは、人それぞれかと思います。しかし、『どんな時でも諦めずに仕事を続ける』と決め、私達の歩んできた姿を見せることで後輩女性社員に、仕事を続けることの大切さを実感として伝えることができたと思います。

共にスポーツで汗を流し、恋を語り、苦しいときも楽しいときも一緒に青春を謳歌したそんな仲間二人の卒業でした。

当社の定年は誕生日の前日となっており、早生まれの私は来年2月まで現役続行です。その日を迎えたとき初めて、還暦であることを実感するのでしょうか……。



イラスト：ご本人より提供

私たちと一緒に

未来に架ける橋梁を造りませんか…

PC(プレストレストコンクリートの略)工法による橋梁建設の専門業者です

新築橋梁建設株式会社

本社 〒183-0026 東京都府中市南町5-38-3 TEL.042-366-0323

大宮事務所 〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町1-117 大宮A・Tビル301号 TEL.048-645-0172

代表取締役 秩父 清二(昭和39年土木科卒)